

病児保育奮闘記

(15)

子どもサポート H&K
大石 仁美

病児保育サービスにおける ある自治体の決断

昨年の2月、富山市が「親に代わって病気の子を保育園までお迎えに行き、病児保育施設に送り届ける事業を始める」という記事が新聞に載りました。

えっ、うちの施設と同じことを行政がやるの?! 行政には出来ないサービスをとって始めたことなので、かなり驚きました。

保育園に預けている子どもが熱を出したとき、園からのお迎え依頼にすぐに仕事を中断して動ける親はそうそういません。同僚に仕事をたのんで動ける職場はずいぶん恵まれた職場です。そうした職場も周囲に気を遣うことに変わりはありません。

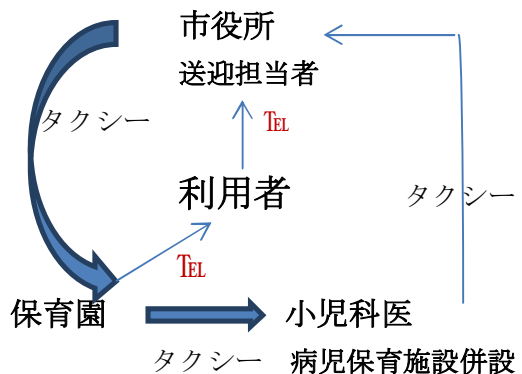
専門職でその人しか出来ない仕事や、アポイントをとって人とかかわる仕事をしている場合は、まず無理なので、祖父母に頼むとか、兄弟姉妹などの身内や知人に頼むとか、ベビーシッターさんに頼むとか、いろいろ策を講じていても、まさに綱渡り状態が多いです。

子どもを持つ親が一番困っている部分に

行政が手を差し伸べてくれるとはなんて嬉しいことでしょう。



富山市は、働く女性の子育て支援には、取って置きのこの支援こそが、究極の手助けだと確信したのでしょうか。



でも本当に上手くいけるのでしょうか。うまくいけばいいのですが、最初からスムーズに機動していくことは難しいでしょうし、その場合は忍耐強く、「助かった！有難かった！」という親たちの声が少しずつ拡散していくのを待つしかないでしょうね。いやいや、予想外の展開だってあるかもしれません。「このサービスを待っていました！」と初日から電話が鳴りっぱなしなんてことになったら面白いなあ。なんて一人勝手な想像をして楽しんでいました。

遊び心のついでに、私が行政の人間だったらどんなふうに展開するかなあと、シミュレーションしてみました。

まず予算と人員配置です。

当初予算 680 万円ということですが、準備にかなりの費用を費やすはず。半年かけて準備をし、残りが半年分の人件費。新たに 3 人雇用するとなると、正規雇用は無理で、期間限定のアルバイトになるのでしょうか。仕事が順調にあれば、それなりに使命感と活気があって面白いでしょうけれど、いつ依頼が入るのか、予測がつかないのがこの仕事の辛いところ。忙しい日もあれば、何日も依頼なしという日が続くこともあるはず。その場合、雇用された 3 人がなにもしないで待機しているだけなんてことはありえません。そう考えると、どこかの部署に所属して、仕事をしながら待機ということになるでしょう。

依頼が入った時にすぐ動ける仕事でないと意味がないので、中断しても大丈夫な仕事、難しくて手のかかる仕事ではなく、かといって、単調な仕事では面白くない。長続きしてもらうためには、それなりの工夫が必要でしょう。

医師の診察は、病児保育施設そのものが医療機関併設型だと思うので、親の希望を聞いたうえで、そこの医師に診てもらうことになるのでしょうか。たぶん、施設には事前登録しているはず。役所としては、それとは別にお迎え希望者の登録をしておく、仕事がやりやすいかもしれません。

費用の徴収はどうするのか。送迎利用の費用 2 千円と受診料は良いとして、タクシー代がかなり問題。職員が役所から園に出向き、子どもを引き取って医師の診察を受けさせ、病児保育施設に預けたのち、役所まで帰る、そのすべてのタクシー代を親の負担にするのでしょうか。場所によってはかなりの高額になるはず。

たびたび利用することはないとしても、はたして何人が利用するのでしょうか。よく病気をする 0~2 歳の園児のうち何パーセントの親が利用したのか、また利用したいと思っているのか関心のあるところです。

そして徴収方法ですが、役所の職員は現金を扱わないと思うので、さてどうするのか。振込方法をとると、回収出来ない場合、あとの手間が大変。いずれにしても、親に「これだけ費用がかかりました」と了承してもらわないとトラブルの原因になるので、出来ればその日のうちに掛かった費用の明細を渡しておく方が無難です。

病児保育施設に委託して、親が子どもを引き取りに来た時に、現金で支払ってもらうのが一番簡単ですが、毎月の保育料支払に上乗せして銀行から引き落としにする方法もあるなあ、などと、運営過程があれこれ浮かんできます。さあ、どうするのか。

このように、勝手なシミュレーションを試みましたが、もうすぐ一年になるにあっ

て、実際はどういう状況にあるのか、スムーズに動いているのか、それとも困ったことがおきていないか気になるところです。市長が「全国にも同様の取り組みが広がって欲しい」とおっしゃっているので、他の市町村が参考に出来るようなアンケート（案）をつくってみました。本当に答えてもらえて、お役に立てばうれしいことです。



病児の送迎事業に関する アンケート（案）

- 1 市内の保育園の数と園児の総数を教えてください。
()
- 2 利用を一日1～2名と見込まれた根拠を教えてください。
- 3 この一年で何人の利用がありましたか。
()人
 - 一か月平均 1～5人
 - 6～10人
 - 11～20人
 - 21～30人
 - 31人以上
- この人数は予想通りでしたか
(少ない 予想どおり 多い)
- 4 広報はどのようにされましたか。すべてに○
 - 市民新聞に載せた

- 市のホームページに載せた
- チラシを、子ども支援センター、保健所、その他行政の窓口にした
- チラシを乳児健診の時に配った
- ポスターを小児科医院や保育園に貼ってもらった
- その他()

5 送迎担当者の処遇についてお尋ねします

- 所属部署()
- 雇用形態
正職員、 常勤嘱託、 契約職員
アルバイト
- 送迎以外の職務内容
()
- 有給休暇 (有 ・ 無)
- 各種社会保障 (有 ・ 無)

6 タクシーについてお尋ねします

- 依頼を受けて、子どもを病児保育施設に預けて役所に帰るまでのすべての行程にタクシーを利用した
- 常にタクシーと公共交通手段を併用した。
子どもの移送はタクシーで、職員だけの移動は、公共交通機関を利用した
- 不便な場所に移動する場合や、悪天候の場合など、臨機応変に利用した
- その他

7 費用の徴収についてお尋ねします。

- 請求書と振込用紙を、後日郵送した。
- 請求書と振込用紙を、お迎え時に手渡してもらった。

- お迎え時に現金で支払ってもらった。
- 請求書を郵送したうえで、保育料と同じように銀行引き落としにした。

● その他
()

- 8 利用者の評判はいかがですか。
- 9 クレームやトラブル等があれば教えてください。
(有 無)
ありの場合、具体的にお書きください。
- 10 役所内での、他の職員の反応はいかがですか。
- とても好意的に見守ってくれている
 - 無関心に思える
 - 浮いているように感じる
 - その他 ()
- 11 この事業について感じるままにお書きください。

お答えいただき、ありがとうございました。

おわりに

このようにみえてくると、この事業が成功するかどうかは、社会全体が、子どもを大切に思い、子育て世代への温かいまなざしと支援を必要と感じていること。さらに重要なのは、矛盾をはらみながらも、**仕事に成果主義を持ち込まない働き方をよしとする社会認識**が不可欠であるということです。さて、全国に広がっていけるでしょうか。